

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨日礼拝

2020年5月31日

父と、御子と、聖霊の御名により、**アーメン**。

前奏：「ただ神により頼む者は」

招きのことば：詩編 104：24-34, 35b

私の魂よ、主をほめたたえよ。主よ、御業はいかにおびただしいことか。地はあなたのお造りになったものに満ちている。大小の生き物はすべてあなたに望みを置き、あなたがお与えになるものを集め、良いものに満ち足りる。ご自分の息をおくって彼らを創造し、地のおもてを新たにされる。私の魂よ、主をたたえよ。ハレルヤ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、

父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

先週の歩みも私たちをお支え下さり、そろって今日を迎えることができましたことを感謝いたします。御子イエス・キリストのお苦しみ、ご復活、そしてご昇天によって、私たちの罪を赦し、新しい命を与え、イエス様の御名によって励まされて歩むことができます。今週もあなたのみ言葉に導かれて、神の子としてあたたかくゆたかに暮らしていくことができますように信仰で満たしてください。

新型コロナウイルスの猛威は世界でまだおわりを見ていません。私たちの身近なところでも第2波、第3波を防ぐため息の抜けない日々が続きます。私たちを助けてください。数か月の長きにわたり医療を担って力を尽くしてくださっている方々や、私たちの日々のくらしに必要なものを整える働きについておられる方々のためにも、日々新しい力を得ることができるようにお支えください。私たちをも家庭生活、学校の生活、またお仕事において導いてください。

今日は聖霊降臨日、ペンテコステです。イースターの日から始まり、今週までビデオやプリントでそれぞれのおうちで同じ礼拝にあずかりました。この礼拝ができるようにかげにあって力になってくださった方々を祝福してください。私たちは復活の主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

この祈りを私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。**アーメン。**

使徒書朗読：使徒 2：1-21

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。

さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。

すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。

「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えられているように、酒に酔っているわけではありません。そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。

『神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしたためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。上では、天に不思議な業を、下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。主の偉大な輝かしい日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

福音書朗読：ヨハネによる福音書 20：19－23

恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

説教「平安があなたがたにあるように」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

イエス様は私たちのために十字架で死に、よみがえられ、天にのぼっていかれました。約束の聖霊が与えられるまで、都にとどまっていなさいと言われていた使徒たちは、五旬節の日が集まっていると、ついにそこに約束通り聖霊がくだりました。五旬節、というのは、50日という意味で、ちょうどイエス様が復活されたイースターから50日目、7週間後の日曜日でした。50日ということをもペンテコステといいます。それで聖霊降臨日をペンテコステの日と呼びます。今日はペンテコステ礼拝の日です。

弟子たちはこの日、力強くイエス・キリストの御救いを証しました。人々は心を打たれ、悔い改めて洗礼を受け、その日3000人の人が仲間に加わりました。彼らは共に集まってイエス様のお話を聞き、同じイエス様の御救いにあずかって、聖餐にあずかり、祈っていました。これは教会の姿です。今も少しも変わりません。ペンテコステは教会が生まれた日、教会の誕生日です。

私たちの伊丹教会はちょうど40年前、この日をもって最初の礼拝を始めました。いつも共に集う私たちの教会を愛して、歴史も少し学んでみることをお勧めします。そのときから一週もやす

まず、ここでイエス様のみ言葉が語られてきました。多くの方が自分の罪を悔い改めて、私たちの罪を赦すために来てくださったイエス様を信じて、罪の赦しと新しいいのちを受けてくださいました。ここに教会が生まれ、そして聖霊様が今まで私たちの教会を導き育ててくださいました。その神様のお働きの歴史のなかに、私たちひとりひとりも加えられています。来年のペンテコステの日に、主のみ旨であればあたたかいお祝いのときを持ちたいと思います。

イエス様に約束された聖霊が使徒たちにくだりました。聖書には、「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」と、劇的に聖霊がくださったことが記されています。

聖霊は使徒たちに何をもたらしたのでしょうか。今日は3つのことを覚えませう。

第1に、聖霊はイエス様の証しをする力を与えました。ペテロはほかの11人と立って「主の御名を信じる者は救われる」と大きな、しっかりした声で話しました。ペテロがどんな人物だったか、よくご存じでしょう。もともと腕っぶしの強い漁師でしたから、元気で、いちずな性格です。イエス様がエルサレムに行ってそこで苦しみを受ける、と言われたとき、私はどんなことがあってもあなたを守ります、と威勢よく誓いました。しかし同時に、本当に恐ろしいものの前では自分を偽って元気にふるまうことができない人でした。漁に出た舟の上で手に負えない圧倒的な嵐に会うと恐れまどいました。イエス様が十字架に先立つ裁判を受けたとき、建物の外で「イエス様の弟子だろう」と人に言われて恐ろしくなり、3回人違いだ、と嘘を通しました。十字架のあとは、ほかの弟子たちと一緒に命の危険に怯えて、部屋に鍵をかけて震えていました。

ですから、都エルサレムで、身の危険をものともせず、全国各地からお祭りのために集まっていた人々に大きな声で、「イエス様を信じたら救われます！」と語ったペテロは、自分自身の力によってではありませんでした。恐れて震えていたあその他の弟子たちも一緒に立っています。

それはかつてイエス様が、上から聖霊が与えられると力を受けて私のことを証しする人になる、という約束が成就したということなのです。

聖霊は、イエス様の死と復活によって、あなたの罪が神様の前でただしく赦されて、あなたは神様の御前に、愛されて大切にされている神の子とされていることを教えてください。罪の赦しの宣言を聞きます。洗礼によって古い罪深い私がイエス様と共に十字架で死に、復活の新しいいのちに生き始めます。聖餐によって私のために裂かれ流されたイエス様の体と血をいただき、確信が強められます。聖霊はこのようにみ言葉や洗礼や聖餐を用いて、私たちのうちにイエス様の救いと恵みをいつも新鮮に与えてくださるのです。罪赦された確信、新しいいのちをいただいた感謝が、聖霊がくださる力です。ペテロがそのあと人々に話したように、悔い改めて洗礼を受けるとき聖霊が贈り物として与えられます。洗礼によってあなたにも与えられています。あなたも自分の力や自分の思いでは考えられない勇気をいただいていることを実感することがあるでし

よう。使徒たちは聖霊の力を受けて、エルサレムばかりか、ユダヤ・サマリヤの全地方、そして地の果てまで、困難な中、イエス様の証人として数えきれない人々に福音を宣べ伝えました。

第2のことは、使徒たちは聖霊を受けて、いろんな国のことばで話し始めた、ということです。ことばを身に着けるのは大変なことですね。英語や中国語や韓国語など、いろいろ身に着けたいと思いがなかなか手ごわいですが、しかし使徒たちは聖霊を受けて自分で話したいことばで話していたのではなく、天下のあらゆる国から帰ってきていたユダヤ人たちの、生まれ故郷のことばで話せるようにしていただいたのでした。

パルティア、メディア、エラムから来た人、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフリア、エジプト、キレネに接するリビア地方、ローマからの人、ユダヤ人もユダヤ教への改宗者も、クレタ島やアラビアからの人もいました。ひとりですべてを回り切れず、当時の全世界です。12人の使徒たちは聖霊に満たされて、そのことばでイエス様のことを話しました。聞く人が旅先や仕事で使うことばではなく、生活で使う自分のことばで使徒たちが話していることに驚いています。

ガラテヤ人への手紙の5章22節に聖霊の結ぶ実がリストアップされています。「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」という9つの実が示されています。聖霊に満たされた使徒たちはイエス様の救いを証する力をいただいたのですが、それはかづくで、聞く耳のない人に無理やり、うるさくお話ししたというわけではありませんでした。自己陶醉の世界に入って、自分の都合で自分の言いたいことだけを、相手かまわず話したのではなく、むしろ、聖霊は聞く人ひとりひとりの出身地を知らせ、その人とその人のそれまでの人生を尊重し、その人のことばを自ら話して、聞いていただくようにしたのでした。

聖霊の与えてくださる力は、興奮した、いきり立った人をつくるのではなく、喜びに溢れて、愛をもってやさしく、おちついて親切、誠実に、自分を抑えて、善意をもって聞き、語るという不思議な力です。聖書の中には聖霊は「力と愛と慎み」を与えるとも書いています。罪の赦しのメッセージを証する人々は、互いに赦し合い、愛し合う人々でした。証しは自己出張ではなく、聞いてくださる人を愛し、赦し、その身になってみ言葉を分かち合うことです。人々の暮らしに寄り添いながら、イエス様の赦しといのちを証していく姿です。あなたにとって具体的には生活のどんな場面で生かすことになりますでしょうか。

第3は、聖霊はすべての人に注がれて、預言や幻や夢を与えるということです。旧約聖書の時代は特別な人にしか聖霊は下ることはありませんでした。しかし、今や、イエス様が罪の赦しを実現し、そのメッセージを伝える人に、神様から預かったことばを語る「預言」のことばが与えられます。また、若者は幻、ビジョンを見ます。老人は夢を見ます。わたしはまだ若いから、と

か、わたしの時代はおわったから、ということではなくすべての人です。当時は社会的な自由を認められていなかったしもべや、はしためという人々にも注がれるとあります。

伊丹ルーテル教会もそのような夢、幻から生まれました。自分の住んでいるところで福音が語られるように、という祈りが結実していったのです。聖霊は諦めや思い込みから私たちを解放してください。自分に与えられている立場や環境をじっくり見まわしてしっかり考えると、ちょうど自分でなければ果たせない役割や使命が見えてきます。人々に先立ってイエス様の罪の赦しと新しい命を与えられた私たち、この大きな神様からのプレゼントを、わたしは誰に、どのような人に、おわかちするのか、どのように備えていくのか、夢、幻の生きがいは聖霊の贈り物です。そしてそれは御心のままにわたしたしの思いを超えて実現していくのです。すばらしい人生ですね。これからもご一緒に聖霊によって夢、幻を共にみて、私たちの伊丹教会が主に用いられますように祈りましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってください。アーメン。

讚美歌 352番

1. あめなるよろこび こよなき愛を たずさえくだれる わが君イエスよ、
すくいめぐみを あらわにしめし、いやしきこの身に やどらせたまえ。
2. **いのちをあたうる 主よ。とどまりて、われらのこころを とこ宮（みや）となし、
あしたにゆうべに いのりをささげ、たたえのうたをば うたわせたまえ。**
3. われらをあらたに つくりきよめて、さかえにさかえを いや増しくわえ、
みくににのぼりて みまえに伏す日、みかおのひかりを 映（うつ）させたまえ。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄の讚美歌 541番

父、御子、みたまの大御神に、ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。アーメン。

祝福のことば

仰ぎ来い願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。 **アーメン。**